



## 未来へつなぐ奈良の森林

日本は国土の約2/3が森林で占められ、世界でも高い森林率を誇る世界有数の森林国である。特に奈良県は、古くから森林・木材と深い縁があり、日本三大人工美林の一つである吉野美林が位置する。吉野林業の歴史は室町時代末期までさかのぼり、吉野杉や吉野桧などの良質な木材が育てられてきた。

これらの木材は、城郭や社寺、酒樽の材料として重宝された。明治時代には土倉庄三郎が吉野式造林法を確立し、奈良県の木材産地としての地位を高めた。しかし、近年は優良材の需要の低迷や海外の安価な材木に押され、林業を取り巻く状況は厳しい状況が続いている。

奈良県ではこの状況を改善するために様々な取り組みを進めている。2024年には「県産材利用推進課」を設置し、木材生産から加工・流通までを一貫して支援する体制を整えた。今回は、奈良県の林業と県産材の需要拡大の取り組みについて紹介する。

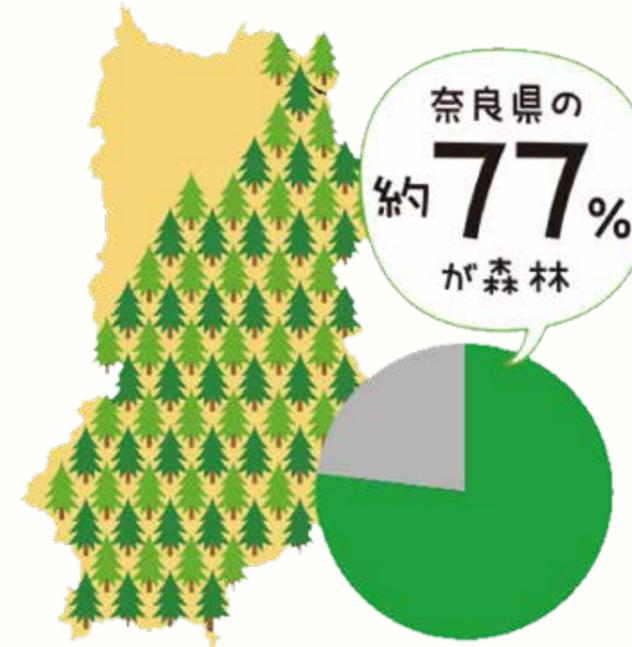
# 奈良の森林と林業の今

## 奈良県の森林と林業の状況

奈良県は、県土面積の77%が森林であり、そのうち95%が民有林となっている。この民有林の人工林率は62%で、全国第6位である。かつて奈良県の林業は盛んで、特に吉野林業が広く知られている。戦後の復興期には木材の需要が増加し、吉野林業は隆盛を極めたが、住宅着工戸数の減少に加え、生活様式の変化などによる需要の減少による材価の低下が進んだ結果、吉野林業を含めた奈良県の林業は低迷して

いる。長引く林業の不振と担い手の減少などにより、人工林における森林整備面積は減り続け、適切に管理されていない森林が多く見られるようになってきている。森林は、水源かん養、山地災害の防止、土壌の保全、生物多様性の保全などの公益的な機能を持っているが、適切に管理されていない森林ではこれらの機能が発揮されない。このことから、低コスト林業の推進と担い手の確保、育成が急務となっている。

奈良県の  
約77%  
が森林



## 間伐している山と 間伐されていない山の違い

森林では間伐の有無によって大きな違いが見られる。間伐が行われている山は、日光が地面に届くため、下草や低木が繁茂し、木々が適切に成長し、土壌の保水力が高まる。また、木材の質が向上する一方で、生態系が豊かになり景観も明るく整然としたものになる。反対に、間伐が行われていない山では、木々が過密状態になり、土壌の流出が進行するほか、木材の質が低下し、生態系や景観にも悪影響が出る。

## 新たな森林環境管理体制の構築・推進

放置される人工林が増加し、森林環境の維持が困難になっている。林業という産業の維持だけでなく、森林の本来の機能を発揮する森林環境管理が必要だ。

奈良県はスイスの森林環境管理制度を参考にし、新たな森林環境管理制度の構築を進めている。

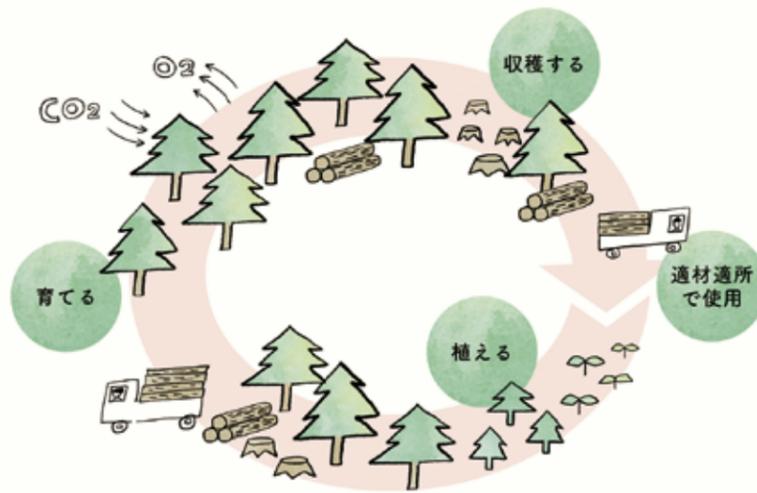
奈良県は、森林環境管理に関する専門知識を持つ人材を育成するため、奈良県フォレストアカデミーを開校した。この奈良県フォレストアカデミーでは、一般学生と県職員として採用した森林管理職が共に学び、森林環境管理の専門知識を身に付ける。卒業後、森林管理職は奈良県フォレストアカデミーとして市町村へ派遣され、他の卒業生は、林業事業体や森林組合などに就業する。彼らは、地域の森林

環境管理の担い手として森林資源の持続可能な利用と保全に貢献する役割を果たす。この新たな森林環境管理体制は、経済性と環境保全を両立させると共に、森林に関する高度な専門知識を持つ人材を育成することで、奈良県の森林環境管理の質を向上させることを目指している。スイスの事例を参考にしながら地域の特性に応じた効果的な制度の実現を図っている。

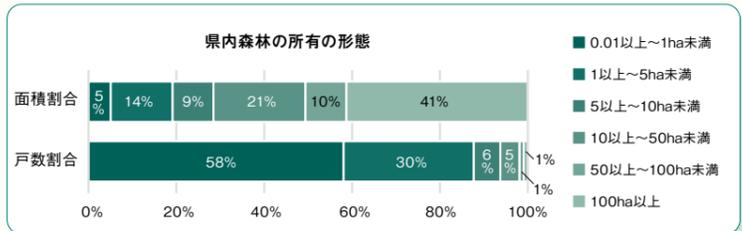
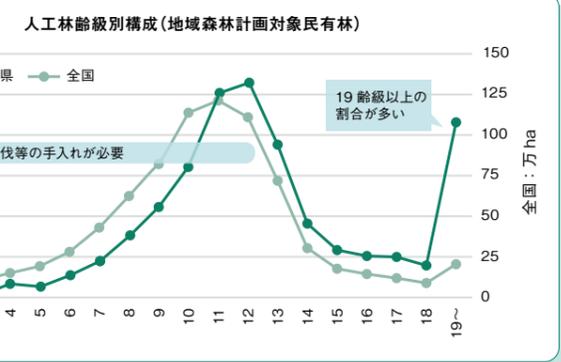


## 森林の循環

森林は、苗木の植栽から伐採されるまでの間、適切に整備されることにより二酸化炭素を吸収、固定して成長する。成長した樹木は伐採され、建築用材や合板・集成材の原料になるほか、木質バイオマス発電の燃料などとして利用されている。森林環境を長期的に維持し、守り続けていくこと、林業と木材産業の発展のためには、伐採後の



森林に再び苗木を植えて、育て、伐って、使うという「森林の循環」を維持することが不可欠である。木材は再生可能な資源、エネルギーだけでなく、利用されている間は木材が固定した炭素が大气中に放出されないので、長期的に利用することで大气中の二酸化炭素は減少する。森林の循環を促進することは持続可能な社会の実現につながる。



森林所有の形態では、戸数割合では小規模経営(5ha未満)の林家が約9割を占めているが、面積割合では50ha以上の大面積経営林家の所有が約5割を占めている。

# 森林づくりと県産材利用促進

## 奈良県の森林づくり

奈良県では、森林を「恒続林」、「適正人工林」、「自然林」、「天然林」のいずれかに誘導することで森林環境の維持向上を図っていくこととしている。

「恒続林」は、地域の特性に応じた種類の樹木が異なる樹齢および高さの状態が存在し、適時かつ適切な方法による保育および択伐による継続的な木材生産により環境が維持される森林をいう。単一の樹種から多様な樹種を含む混交林へと誘導し、適切な森林整備を行うことで、長期的に森林環境が維持される森林を目指す。

「適正人工林」は、スギ、ヒノキその他の人工造林を代表する種類の樹木が同程度の年齢および高さの状態が存在し、適時かつ適切な方法による保育により環境が維持される森林であって、木材生産を主目的とするものをいう。

「自然林」は、スギ、ヒノキその他の人工造林を代表する樹種の樹木と地域の特性に応じた種類の樹木が混交する森林であって、自然の遷移により環境が維持されるものをいう。

「天然林」は、地域の特性に応じた種類の樹木が自然に生成することにより環境が維持される森林をいう。

奈良県では、森林の4区分への誘導と森林環境の維持向上を図るため、間伐などの森林整備に対する支援のほか、森林整備を効率的に実施するために必要な林業機械の導入に対する支援などを行っている。これに加えて、林業の担い手を確保するため、林業事業者の労働条件の改善に対する助成や労働安全衛生の確保のための研修会の開催のほか、林業に特化した無料職業紹介所を設置し、林業就業希望者と林業事業者とのマッチングを行うなど、新規就業希望者への支援を実施している。



■森林整備の推進

苗木の植栽、下刈り、間伐、枝打ちや木材生産に必要な森林作業道の開設などに対して支援を行う。



■林業機械の導入

木材生産を効率的に行う林業機械の導入に対する支援のほか、ICT機器の導入やICT機器を効率的に使用できる人材の育成に対する支援も行う。



■担い手の確保、育成

奈良県フォレスターアカデミーでの人材育成に加え、林業就業希望者と林業事業者とのマッチングを行う。

## 県産材の加工・流通の促進

ニーズに対応した部材が適時供給されることが求められることから、木材加工の効率化やコスト削減、品質向上などに向けた施設などの整備を支援すると共に、素材生産事業者、木材産業者、建築関係事業者が相互に連携し、県産材を効率的・合理的に流通させる体制を整備するよう促している。

原木市場における集出荷作業の効率化、製材工場や集成材工場などの生産効率の向上、材質高度化および生産品目の転換を図るための設備などの整備を支援している。



奈良の木を使用した住宅への助成制度  
県内外で奈良県産材を使用した住宅工事を行う際に助成金が受けられる(予算に限りあり)。

## 公共施設での利用

県最大の会場であり観光交流拠点である「奈良県コンベンションセンター」では、地元奈良の木材が使用されている。館内のあらゆる部分に奈良の木がふんだんに使われており、特に半屋外スペースの「天平広場」では、高さ約13メートルの格子状の木の大屋根が特徴である。内装や調度品にも吉野杉が多く使用され、格調高く趣のある空間が創出されている。



## 木質バイオマスの利用促進

「バイオマス」は、生物由来の資源であり、化石燃料の使用を抑え、環境に優しいエネルギーを提供する。間伐材や端材などのバイオマス資源について、発電や熱利用のための燃料や、製紙・木質ボードなどのマテリアルなど多用途への利用が進められている。



薪ボイラー(写真左)と薪(写真右)

## 奈良の木のPR

奈良県では県産材の利用をさらに広げるため、PRや情報発信に加え、国内外への販路拡大や奈良県内の木材利用の普及啓発、木育の推進など様々な事業を展開している。

特に、ポータルサイト「奈良の木」



ポータルサイト「奈良の木のこと」

2017年3月に開設された奈良の木の総合サイト。このサイトを見れば奈良の木のことがよく分かる。



こと」では奈良県産材を使用した建築事例やプロダクト、木に関わる人々へのインタビューなど奈良県産材の魅力を様々な切り口から紹介し、奈良の木を身近に感じてもらい取り組みが行われている。

奈良の木づかい運動

林野庁では、平成17年度から木材利用の意義と利用の拡大を図るため、日本の森林を育てていく国民運動として「木づかい運動」を展開している。奈良県においても、県内の豊かな森林資源を未来の子どもたちへつないでいくために県内の市町村や木材関係団体と連携しながら、広報活動やイベント開催などを通じ、県民の方々に、奈良の木の特徴や魅力を知ってもらおう「奈良の木づかい運動」に取り組んでいる。

特に、「奈良の木づかい運動推進月間」である毎年10月には「奈良の木づかいフェスタ」の開催やSNS広告の展開などを通して、県産材の魅力や県産材を使う意義について、広く県民の方々に知っていただく活動を行っている。



10月は「奈良の木づかい運動」推進月間です

木育インストラクターの養成

子どもから大人まで、生涯にわたる木に関する様々な体験を通して、豊かな感性を育みつつ、森林や環境問題に対する理解を促す活動である「木育」。

奈良県では、木育の目的を理解し、森林や林業、木材、環境について分かりやすく伝える指導者を養成する「木育インストラクター養成講座」を令和2年度から県内で開催し、木育の普及に努めている。また、令和6年度は木育インストラクター有資格者を対象としたフォローアップ講座を初開催し、情熱と使命感を持って、地域で「木育」を推進していくリーダーの研鑽の機会を提供している。



木育インストラクターフォローアップ講座の様子

奈良の木づかいフェスタ

10月5日(土)、6日(日)  
場所: イオンモール大和郡山



過去のイベントの様子(木の玉プール)

2025年開催の大阪・関西万博を見据え、今年は木材利用を通じたSDGsの達成をテーマにイベントを開催。割り箸作り体験、丸太切り体験、奈良の木を使ったグッズの販売など子どもから大人まで楽しめるイベントとなっている。また、奈良県児童生徒木工作品展も同時開催。

よしのウッドフェス

10月12日(土)、13日(日)  
場所: 吉野貯木場



イベント詳細はこちら

【木のまち吉野】で開催される、多様な切り口から木の魅力と可能性を体感できるイベント。地域にまつわるマルシェや木工体験、吉野の木と歴史を学ぶツアーなどを通して木や森を楽しむことができる。